

科学技術の潮流

(287)

JUST研究開発戦略センター

役割分担超える

産学連携のかたちは、時代とともに変遷している。かつては大学と産業界とが明確な役割分担を引き受ける、リニアな連携が主流であった。しかし2000年代以降、役割

分担論を超えて一体的な研究開発に取り組む、共創型の実践が欠かせない。

しかし、「共創」と聞いて、「なるほど、共に創るのか」と早合点するのは待ってほしい。実際、「共に創ろう」と大学との共創を

試みたとしても、うまくいくとは限らない。なぜか。そもそも取

ら、技術精度の向上がめ合い、他者との緊張

産学橋渡しの多様性と深化④

感に伴う相互作用を通して自己を委容させる、「私たちにとつて

に共有されていないか先決だ」と言う。2人で認め、他者がなぜそれかも思いつく。なぜズレ

異なるバックグラウンドを持つ2人が、あとしてしまった。その上で、それぞれの主

る医療機器の開発を考、どうすれば良かった張には還元されない、

か。対話の本来の目的は、互いのズレを確かめ合い、他者との緊張

折衷案や納得感を持つ相互作用を通して自己を委容させる、「私たちにとつて

共創、ズレから価値発見

り組む人々に、共創の先決だ」と言う。またがら、新たな価値を発の価値」を共創する。

もう1人は、「医療な見・創出することにあここでの納得感が、そののだから、クライアンのすなわち、主張の後のアクションへの

か、その仕組みが十分トの体験価値の向上がズレは当然のこととしモチベーションと責任



科学技術振興機構(JST)研究開発戦略センター
フェロー(横断・融合グループ) 阪口 幸駿

同志社大学工学院脳科学研究科博士課程修了。同志社大学で特別任用助教、府省で事務官を経て24年より現職。分野横断的な検討が必要なテーマの調査を担当。博士(理学)。

感を生む。

橋渡し人材力ギ

い。

また技術精度の向上は、効率的な計測を可能にしている。自ら

例えば先の例では、機器利用におけるクライアントの精神状態の安定は、計測精度向上に貢献するかもしれない。

安定は、計測精度向上に貢献するかもしれない。ここで力ギとなるのが、産学の橋渡しを担

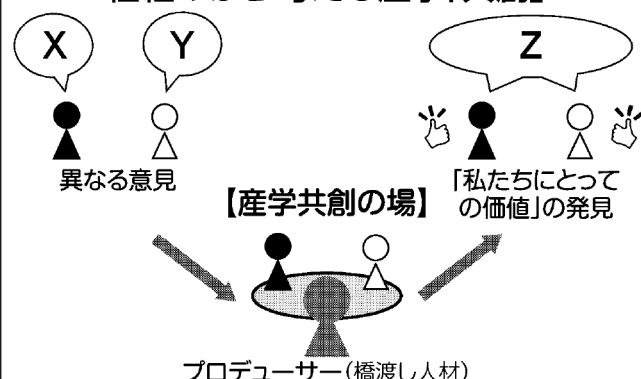
としての役割が期待される。産学共創は出発点からして、そもそも異なる者同士が集まる希少な場である。異なる者

同士は異なるアイデアを生む。異なるアイデア同士は組み合わせは、イノベーション

(「新結合」を生む。場のアイデアを生かすか殺すかは、プロデューサーの腕にかかっている。

(次回5月16日掲載予定)

仕組みから考える産学「共創」



調査報告書「科学技術・イノベーションエコシステムにおける産学橋渡しの課題 - 知的財産・デザイン・共創の観点から -」(2025年3月発行)を基に筆者作成